

# 備中高松城下町かわら版

http://www.takano.okayama-c.ed.jp/

第 7 号

平成 17 年 3 月 18 日

発行元  
岡山県立  
高松農業高校  
tel  
086-287-3711  
fax  
086-287-3713



3月1日、第106回卒業証書授与式。写真は答辞を読む永演訓子さん(生物工学科卒業)。これまでの卒業生は17,098名です。

## 【朝礼台】卒業生を送り出した

三月一日、百八十四名の卒業生たちはそれぞれの想いを胸に高松農業高校を巣立っていきました。卒業式は、厳粛で感動的なものでした。今年の三年生は、「エネルギーのある学年」で、生徒会、農業クラブ、家庭クラブ、部活動等でリーダーシップを発揮しました。

最後の校歌斉唱の歌声は、三年間の学業をなにし終えたという自信と誇りにあふれていました。三年間で生徒一人ひとりが個性を持ち、「いい顔」をして卒業していったと思います。学校にとりましては、数ある学校行事の中でも卒業式は特異な行事であることを毎年感じます。卒業生を祝福喜び、生徒を送り出したという安堵感、生徒が私たち教師の手元を離れた社会に出て果たしてやっていくだろうかという不安感、そして式が終わる、三々五々、別れの挨拶に来るとき、の惜別感、このような気持ちで複雑に交錯する卒業式という行事は、他の行事では経験できない不思議な行事です。また、私たち教師にとりまして、「教師という職業」に少しばかりやりがいを感じる日でもあります。無感動になつたとされる現代の高校生たちですが、多くの生徒たちが決して見ているのを見て、つい涙を誘われました。卒業生の前途に幸多からんことを願っています。(校長より)

【木浦れい】三月一日発行の本校新聞部の「霸王学報」りゅうおうがくほう(う)から一部転載させて頂いたいただきます。

三年間の学校生活がとも楽しかった。農業経済科卒業 川崎将尚

様々な出会いがあった三年間、離ればなれになつてもみんなのことは忘れない。園芸科学科卒業 磯中崇行

先生と生徒が毎日、笑顔でどんな時でもわらつていられる学校でした。ありがとうございました。園芸科学科卒業 花土 愛

この学校に来て、本当によかったです。とても楽しい高校生活がおくれました。畜産科学科卒業 山下千佳

去年一年間が高校生活最高の年やつた。そしてよく泣いた。ベキンに行くぞ！農業土木科卒業 高林 努

長いようで短かった三年間。部や学校生活、楽しい事一杯の三年間でした。生物工学科卒業 西田 愛

## 卒業式 その2



卒業式は、張り詰めた空気の中で、静かに進行した。式の半ば、森理絵さん(畜産科学科2年)の送辞は、その場にいる私たちに深い思考の時間をくれた。高麗という高等学校で、農業を学ぶというところにどのような意味があるのか。

## 卒業式に文字通り花を添えました。



このコサージュの製作には本校の高校スペシャリストの赤木雅美先生のご指導を受けました。



上記の写真は卒業生のために園芸科学科・各クラスの有志で作ったコサージュです。



卒業式 その3  
卒業生入場

【職員室】昨年度に引き続き、HR棟を中心に大規模改修工事、普通教室15、特別教室3、生徒会室、会議室等、トイレ6の29室が整備され、新築の校舎のようになりました。

## 新装になったHR棟



生徒昇降口もこのとおり



小野さんご協力ありがとうございました。

この度、入校証を作りました。急ぎよ、本校に仕事で来られた小野書店の会長さんにモデルになってもらいました。胸からかけている黄色のひもの黄色の札は来校者の方の入校証です。地域のみなさんも、本校に来られたらご面倒ですが、ご協力をお願いします。



【卒業式 その4】校歌斉唱の場面。約六百名の生徒が高らかに校歌を歌った。教職員も、吹奏楽部の演奏に乗って、「吉備の廣野(ひろの)に地をしめて平和の光窓に清く、希望に燃えや若人の、空に大地に歌響(よるこせむ)に教の鐘をひびかせむ」と精一杯の気持ちを含めて歌いました。

【ホームルーム】ライブドアの堀江社長とフジテレビの日枝会長の攻防が毎日、新聞やテレビで取り沙汰されている。善し悪しは別として堀江氏の時代に対する自信には驚かされる。かつて、編集者が学生の頃、オイルショックがあった。誰もトイレットペーパーを買い求めて行列を作ったのもその時である。あと二十年で石油が無くなる。と本気で心配していた。ちよとそこの頃、トヨタ自動車当時の社長がある雑誌の対談で、「自動車業界はあと三十年は大丈夫」と言っていたのを覚えている。信じられなかったが、目の前で流れるように売れる自動車産業に身を置いていた人々からではある。現に三十年経った今、まだ自動車業界は元気だ。インターネット業界の隆起と言われる堀江氏も、これだけ閉塞感漂う現在にあって、勢いは止まらない。きつと、両氏とも我々には見えない時代の流れの先を眺む力を持ち、何かを予見しているのだ。さて、そんな世帯を他に本校の植物園は春の気配に満ちあふれている。